

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名：「欲知宗谷の生徒会長観察レポート！」

テーマ：「生徒会長なのに、何も出来ない美少女」

キャラクター

35

ストーリー

35

テーマ(設定)

40

文章力

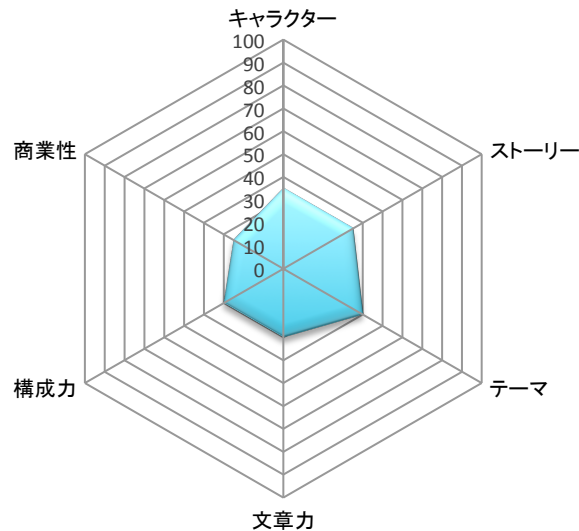
30

構成力

30

商業性

25



・見受けられる基礎的な問題点

- ・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- ・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- ・キャラクターの行動に動機がなく、物語がご都合展開になってしまっている
- ・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- ・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- ・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- ・物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- ・意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- ・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- ・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- ・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- ・文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- ・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- ・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- ・「この作品の最大の魅力はこれ！」というものがない

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

・「揺れる黒髪、透き通るような白い肌に、出るところは出ているモデルのようなシルエット。十人に聞いたら十二人が美少女だと答えるだろう。」 十人中十二人という言い方が非常に面白かった。ただ少し、キャラクタの描写の際に「～のような」を使い過ぎているため、魅力の描写が少し陳腐なものになってしまっている。一度「～のような」を封印した描写を心がけると筆力上昇が見込めるのではないかな。

・物語の進行スピードが全体的に遅い。例えば序盤は魅華に関する情報量が多過ぎるあまり、小説というより魅華の説明書を読まされているような感覚さえてしまう。ここについては「こんな情報量少なくて大丈夫？」と思うくらい大きく描写を削って、読者側に「きっとこんな人物なのだろう」と想像の余地を残すくらいの方が作品自体の面白さの向上が見込めるかもしれない。

合計加点ポイント: 0

総得点: 195 / 600

B方式総合得点: 6338 点